

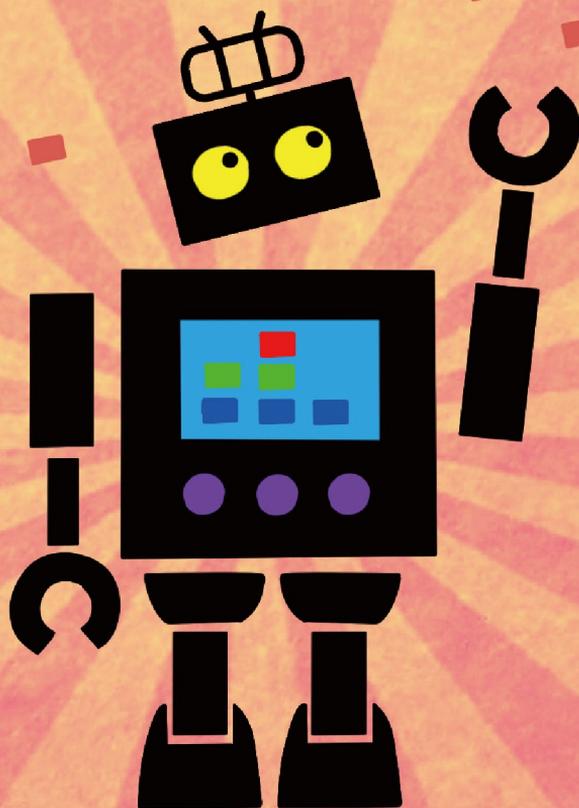


初心者&ITに馴染めない「大人」に贈る

趣味の

ChatGPT

酒井麻里子



超初心者、ITに馴染めない「**大人**」に贈る

趣味の

ChatGPT

酒井麻里子

はじめに

ChatGPT は、難しくも怖くもない

対話形式で高精度な文章を生成できる AI の「ChatGPT」(チャットジーピーティー) が登場したのは 2022 年末のこと。サービス開始後わずか 5 日で世界のユーザー数は 100 万人を超え、2 か月後には 1 億人を突破するなど驚異的なスピードで広がっていきました。

ChatGPT は、文章を生成できることから「生成 AI」とよばれています。生成 AI には画像を生成できる「画像生成 AI」もあり、こちらは ChatGPT の登場より数か月早い 2022 年夏頃からブームとなっています。また、ChatGPT 以外にも文章を作ることができる AI が登場しています。そして今、これらの生成 AI が大きな注目を集めているのです。



ChatGPT の提供元である OpenAI が、2022 年 12 月 1 日 (日本時間) に twitter に投稿した、ChatGPT サービス開始の告知。すべてはここから始まった

「生成 AI が世の中を変える！」と大きな盛り上がりを見せる一方で、高性能な AI が人間の仕事を奪うことを危惧する声や、「AI に頼ることで思考力が落ちるのでは？」と心配する声なども聞こえてきます。そして、「すごいことが起きていそうだけれど、いまひとつ自分の生活への影響をイメージできない」という方もいらっしゃると思います。

この本で伝えたいこと

私は IT ライターとして、新しい技術やそれをとりまく世の中の動き、使いこなし方などに関する取材・執筆を行っています。研究者やエンジニアといった立場ではなく、業界を少し俯瞰するような立ち位置にいるからこそ、どんな人も、その人なりの形で新しい技術の恩恵を受けて幸せな関わり方をしてほしいと願っています。

「仕事で使う予定はないから、とりあえず覚えなくていいかな」

「創造的な仕事を AI にやらせて大丈夫なの？」

「なんとなく怖い」

「テレビで取り上げられていたので気になっている」

「便利なら使ってみたい」

ChatGPT などの生成 AI に対して抱く感情は、人それぞれだと思います。本書は、「ChatGPT をガンガン使いこなす予定はない」「でも、少しだけ気になっている」という方が、ChatGPT の基本を理解し、趣味や生活、あるいはちょっとした仕事で ChatGPT を役立てられるようになることをめざすものです。使い方のノウハウだけでなく、AI の基礎知識や ChatGPT の技術的なしくみ、生成 AI をとりまく世の中の動きや課題、文章以外の生成 AI なども幅広く知ることができ、読み物として楽しみながら ChatGPT についてのひととおりの基礎知識が得られるようになっています。

また、IT に詳しくない人でも理解しやすいように、専門用語やカタカナ言葉の使用をできるだけ減らし、どうしても使う必要がある場合には説明を

加えるようにしています。それでも抵抗を感じるという方は、具体的な活用方法を紹介している2章と3章から読み始めてみることをおすすめします。ChatGPTでどんなことができるのかがわかり、他の章も読み進めやすくなるはずです。

「新しい技術は若者が使うもの」というイメージを抱いている方もいらっしゃるかもしれませんが、ChatGPTとのやりとりは、人間同士のコミュニケーションに通じるものがあります。そういった意味で、人と人とのコミュニケーションをたくさん経験されている大人世代の方こそ、ChatGPTに的確な「指示」を出し、よりよい活用のしかたができるかもしれません。コツさえつかんでしまえば、難しいことはなく、人間の存在をおびやかすような怖いものでもありません。「最近の技術にはもうついていけない」と感じている世代の方にも、ぜひ生成AIの世界を楽しんでもらえたらと願っています。

⚡ Model: Default (GPT-3.5)



これはChatGPTの入門書です。読者の皆さんに向けて簡単な自己紹介をしてください。



こんにちは！私はChatGPTと呼ばれるAIです。ChatGPTは、OpenAIが開発した自然言語処理モデルの一種です。私の目的は、人々と対話を通じて情報を提供し、質問に答えたり、意見を交換したりすることです。

私は広範な知識を持っていますが、その情報は2021年までのものですので、最新の出来事については把握していません。ただし、一般的なトピックや一般教養に関する質問にはお答えできるかと思います。

私は日本語を流暢に理解し、対話することができます。どんな質問や話題でもお気軽にお聞きください。お手伝いできることがあれば、喜んでお答えします！

ChatGPTから、読者の皆さんへ向けた自己紹介。このように、人間に仕事を依頼するような自然な会話形式で文章を生成することができる

CONTENTS

はじめに ChatGPT は、難しくも怖くもない i

chapter01 ChatGPT って何？

意外と古い AI の歴史	2
「ディープラーニング」で AI の性能は大幅に向上	4
ChatGPT が「会話」をするしくみ	5
ChatGPT の始め方	7
Google アカウントなどを使った登録方法	11
ChatGPT の基本の使い方	13
ChatGPT でできること	16
■文章を考える／■文章を要約する／■文章の書き換えをする	
■アイデアを練る／■翻訳をする／■プログラム作成に使う	
有料プラン「ChatGPT Plus」のメリット	18
ChatGPT と Web 検索の違い	21
検索結果を反映できる機能の実力は？	22
調べものの「入り口」として使うのがおすすめ	24
「Bing chat」や「Bard」は何が違うのか	25
■ Bing chat／■ Bard	
派生サービスは目的特化	27
column：スマホアプリから ChatGPT を使う	29

chapter02 ChatGPT を使ってみる

ChatGPT で川柳を作る	32
AI に「あめんぼ あかいな…」の “ざ行バージョン” は作れるか？	36
■サンプルを渡してみる／■ルールをきっちり指定する／■使える品詞を 指定する／■全体に意味をもたせる／■不自然な部分を修正指示する	
「AI が理解できなかったもの」の正体はなにか	47

「丸投げ」ではなく「協業」で使う	50
冷蔵庫の食材で作れるものを考えてもらう	52
■食材や条件を伝える／■「お弁当」と指示すれば屋食向きのレシピに／	
■追加質問で自分に合ったレシピに変える	
「なにをしたいか」を明確に。	
ときには結果を疑うことも大切	60
Bing Chat を使って AI と読書会をする	62
■解釈の分かれるシーンについて聞いてみる／■「もし○○だったら」を	
考えてもらう／■別の視点から考えてもらう／■登場人物同士で往復書簡	
を書いてもらう	
「考えを深めるツール」として役立つ	69
趣味や生活で使う場合の注意点	70
column : ChatGPT で「なりきりチャット」を楽しむ	72

chapter03 ChatGPT を仕事に試してみる

ChatGPT でメールの下書きをする	74
長い文章を要約する	77
文章のスタイルや文体を書き換える	80
■難しい説明を平易な文章に書き換える／■「です・ます調」と「だ・で	
ある調」を書き換える／■長い文章を Q&A 形式に書き換える／■長い文	
章を会話形式に書き換える／■くだけた文体を堅い文体に書き換える	
イベントの企画を考える	82
英語のメールを翻訳し、返信文も考える	91
仕事で使う場合の注意点	95
1. 内容が正しいかどうかの検証を必ず行う／2. 個人情報・機密情報は入	
力しない／3. 「ここで AI を使うのは適切か」を考える／4. 必要に応じて「入	
力情報を使わせない」設定をする	
column : Windows に生成 AI が標準搭載される	99

chapter04 ChatGPT を "もっと" 使いこなす

使いこなしの七箇条は「 ナイスなうさぎ 」	102
「な」：なにをするか決めるのは人間	
「い」：依存しすぎない	
「す」：筋道をたてて具体的に指示する	
「な」：何度も繰り返し質問する	
「う」：嘘を見抜くのは人間の仕事	
「さ」：最後は人間が責任をもつ	
「ぎ」：技術はあくまでも手段	
指示文を上手に書くコツ	105
1. 前提条件を明確に伝える / 2. 長い指示文は「見出し」や「箇条書き」を活用 / 3. 必要に応じて「見本」を見せる / 4. 的外れな回答は追加指示で軌道修正 / 5. 必要に応じて「出力形式」も指定	
本質は「人への指示」と同じ	108
ChatGPT の「プラグイン」で機能をプラスする	109
すぐに使えるおすすめプラグイン	111
■ PlugFinder / ■ Kakaku.com / ■ MixerBox ChatVideo /	
■ AskYourPDF / ■ Show Me Diagrams	
column ：指示文に使われる「#」の記号の意味は？	115

chapter05 生成 AI 普及の可能性と課題

生成 AI の普及で懸念されていること	118
1. 誤情報がそのまま利用される可能性 / 2. 情報漏えいにつながる可能性 /	
3. 著作権侵害が起こる可能性 / 4. 教育に悪影響をおよぼす可能性	
企業は「自社専用の生成 AI」を導入	121
各地の自治体でも導入が進む	124
組織向けのガイドラインも公開	125
文部科学省の「ガイドライン」はどんな内容？	126
大学での対応はさまざま	128
「AI の文章を見分けるツール」の精度は？	129
活用 or 禁止、今後はどうなっていく？	132
column ：EU では「AI 規制法」の制定に向けた動きも	133

chapter06 さらに広がる生成 AI の世界

生成 AI をめぐる動き	136
業務ツールへの生成 AI 組み込みは当たり前	136
■ Microsoft 365 / ■ Google Workspace / ■ Notion /	
■ Note	
国産の大規模言語モデル開発の動きも	141
画像生成 AI も人気のツールに	142
■ Bing Image Creator / ■ Dream Studio / ■ AI PICASSO	
■ Adobe Firefly	
動画や音声を生成するツールも	150
■ Runway Gen 2 / ■ MusicGen / ■ Voicebox	
■ Shap-E	
クリエイティブツールへの組み込みも進む	154
■ Canva / ■ Photoshop / ■ Premiere Pro	
「AI と共同作業」が当たり前の世界に	157
column : AI で実在の人間の「クローン」を作り出す!?	159
おわりに ~AI は道具にすぎない~	161
付録「趣味の ChatGPT ポイント集」	165
索引	175
参考文献	180

本書は 2023 年 7 月時点の情報をもとに執筆しています。

本書の発行後に、サービス内容や画面構成、料金などが変更される場合もあります。

最新情報については各サービス提供元の公式サイトなどをご確認ください。

chapter01

ChatGPT って何？

意外と古い AI の歴史

ChatGPT は、テキスト（文章）による会話形式で質問と回答のやり取りを重ねながら、必要な情報を得ることができるサービスです。たとえば、お題を与えて川柳を作ることもできますし、冷蔵庫にある食材と自分の好みを伝えて夕食のメニューを考えてもらうこともできます。仕事で使うなら、面倒なメールの文面を考えるのを手伝ってもらうことも可能です（具体的な方法は 2 章と 3 章で紹介します）。なぜ、そのような高度なことが可能なのかというと、AI（人工知能）による情報の処理が行われているためです。

ChatGPT に限らず、AI は私たちの日常生活のなかですでに広く使われています。たとえば、iPhone などに搭載されたアシスタントの機能「Siri」や、翻訳ツールの「Google 翻訳」にも AI が使われていますし、スマホカメラで撮影した写真を AI で判別し、被写体となっている植物の名前を調べたり商品を検索したりできる「Google レンズ」を使ったことがある方もいらっしゃるかもしれません。

ChatGPT の話をする前に、AI がこれまでどのように進化してきたのかを簡単に振り返ってみましょう。AI に対して「新しい技術」という印象を持っている方も多いかもしれませんが、その歴史は意外と古く、人工知能という言葉が世界で最初に使われたのは、1956 年にアメリカのダートマスで開催された研究発表会だといわれています。

その後、1960 年代にかけて最初の AI ブームが起こります。ただし、この当時の AI でできることは、「推論」や「探索」とよばれる一定のルールが定められた問題を解くことに限られていました。つまり、パズルや迷路のようなものであれば解くことができるものの、現実社会で課題となる



ような複雑な問題には対応できなかったのです。このことから、1970年代には AI ブームは一旦下火になります。



図 1-A 「AI」という言葉が世界で最初に使われたのは 70 年近く前の 1956 年にさかのぼる。その後、現在までに 3 回の AI ブームが起きている

1980 年代に入ると、再度 AI が注目を集めるようになります。これが第二次 AI ブームです。この時期には、膨大な専門知識をインプットし、それをもとに必要な答えを導き出す「エキスパートシステム」の研究が進められました。医療診断をはじめとした実用的な領域での活用が期待されましたが、インプットされる情報の量が膨大になると、それらの情報を適切に維持管理することが困難になるといった課題も見えてきました。

2010 年代になると、現在につながる第三次人工知能ブームが訪れます。ここで鍵となるのが「機械学習」や、機械学習の一分野である「ディープラーニング」というしくみです。詳しくは後述しますが、これらの技術によってより複雑で高度な判断が可能となり、AI で行えることの範囲が大きく広がりました。



最初に「AI」という言葉が使われたのは 70 年近く前とされる。
3 度のブームを経て現在のレベルまで進化を続けてきた。

「ディープラーニング」でAIの性能は大幅に向上

世間一般で「AI」とよばれているものは、そのなかで動いているしくみやできることによって、いくつかに分類することができます。まず、もっとも広義のAIといえるのが、「あらかじめ学習した情報を元に最適な動きをするプログラム」です。たとえば、障害物を避けて進む掃除ロボットや、

入力された質問に対して、あらかじめ用意された想定問答集を元に答える「チャットボット」などはここに含まれます。先述の歴史の流れでいうと、第一次・第二次AIブームの時代に登場した技術を使っ

たものが該当します。

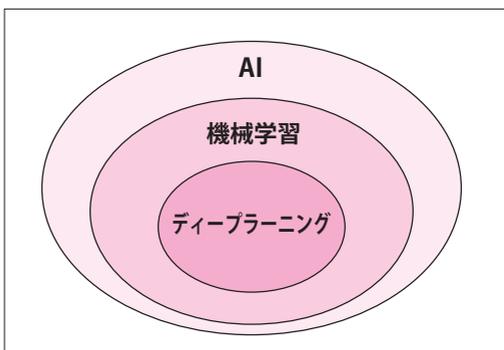


図1-B「AI」とされるものの一部に「機械学習」があり、その手法のひとつとして「ディープラーニング」がある

そして、より高度な判断を行えるようにしたものが、「機械学習」です。これは簡単にいうと、「あらかじめ学習した情報を元に、AI自らが判断や学習を行える」技術になります。これにより、未知のデータに対しても、すでに学んでいる情報をもとに、AI自身が「おそらくこうだろう」という判断を行うことができるのです。

さらに、機械学習の手法のひとつである「ディープラーニング」の登場が、機械学習の精度を飛躍的に向上させました。ディープラーニングでは、人間の脳に似せたしくみで情報処理を行っており、言葉や画像が持っている特徴をAI自身で見つけることによって、従来の機械学習より複雑な判断を行うことができるようになっていきます。



人間の脳に似せたしくみで情報処理を行う「ディープラーニング」の登場で、AI の性能は大きく向上。複雑な判断を行えるようになった。

ChatGPT が「会話」をするしくみ

ChatGPT を実際に使ってみると、入力された文章をまるで人間のよう
に理解して、それに対して答えを返しているように感じます。しかし実際
は、人間と同じように言葉を理解できているわけではなく、AI が人間の
書いたテキストから学習することで、人間の会話に近いふるまいを再現し
ているに過ぎないのです。

ChatGPT の回答の元になるのは、「GPT モデル」とい
う大規模言語モデルです。こ
れは、インターネット上に存
在するさまざまなテキスト
を学習、文章の単語や文節の



図1-C元となるGPTモデルに対して、より適切な回答を出力するための学習を行っている

関連性を数値化して文脈を理解することで、「次に来る単語」を予測できる
ようにしたものです。このしくみは「トランスフォーマー」とよばれ、
ChatGPT をはじめとした言語を扱う AI の性能を大きく向上させる要と
なったディープラーニングの技術です。これによって質問に対する回答と
してふさわしいテキストを予測できるようになります。

ただし、この時点では会話形式のやりとりには最適化されておらず、適
切ではない回答も含まれている可能性があります。そこで ChatGPT では、
より高精度な回答を出力するための学習を行っています。まず、用意さ
れた適切な質問と回答の組み合わせを学習する「教師あり学習」を行

ます。その後、ChatGPTが出力する回答がどの程度適切なものであるかを人がフィードバックする「報酬モデルの学習」とよばれる過程を経て、ChatGPT自身が自分の回答がどの程度適切かを自分で評価する「強化学習」によって、自然で適切な回答を出力できるようになるのです。



ChatGPTは、適切な質問と回答を学習する「教師あり学習」、回答を人がフィードバックする「報酬モデルの学習」、回答が適切かどうかを自己評価する「強化学習」などによって高精度な回答を実現している。



ChatGPT の始め方

ではよいよ、実際に ChatGPT を使ってみましょう。ChatGPT には、アカウントを作成するだけで使える無料プランと月額 20 ドルの有料プラン「ChatGPT Plus」の 2 種類が用意されています。基本的な機能は無料プランで利用可能なので、まずは無料プランを使ってみることをおすすめします。

ChatGPT の登録画面は英語なのでハードルが高そうに感じるかもしれませんが、実際に ChatGPT を使うときには、英語の画面を操作しなければならない場面はほとんどありません。以下に手順をひとつずつ説明しますので、「面倒なのは登録時だけ」と考えて進めていただければと思います。

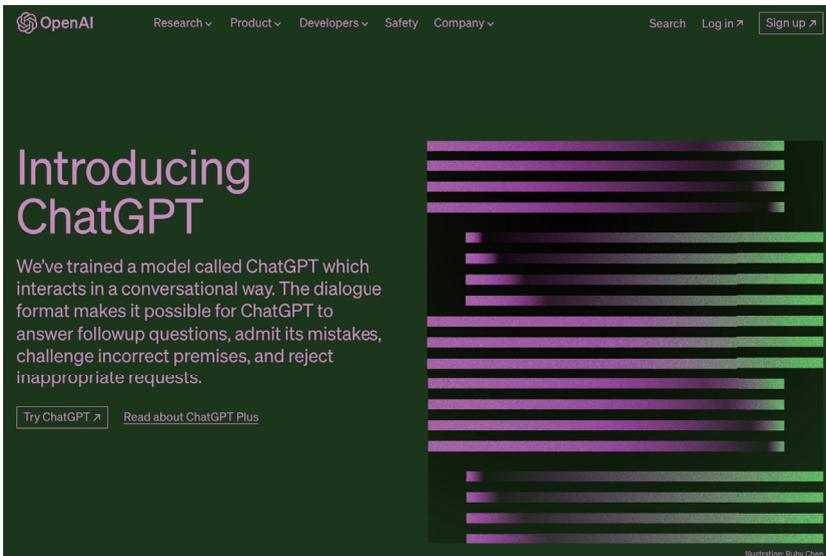


図 1-D ChatGPT の提供元、Open AI の公式サイトには、ChatGPT の技術的なしくみなどの説明も掲載されている

<メールアドレスで登録する方法>

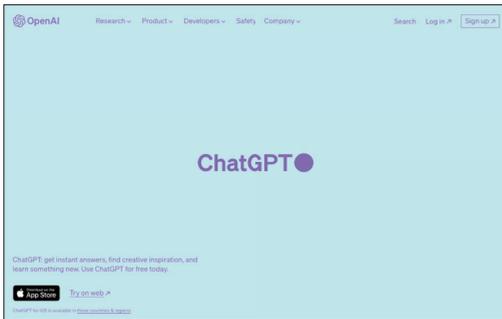


図 1-E-1 ChatGPT の公式サイト (<https://openai.com/chatgpt>) にアクセスし、右上の「Sign up」をクリックする

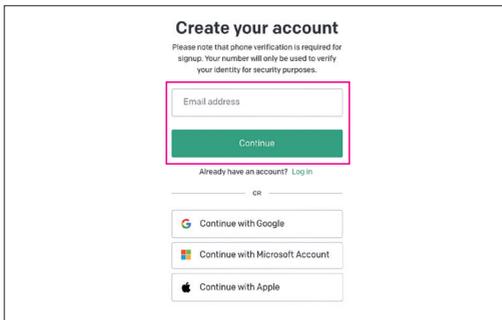


図 1-E-2 メールアドレスを使って登録を行う場合、「Email address」の欄にメールアドレスを入力して「Continue」ボタンをクリック

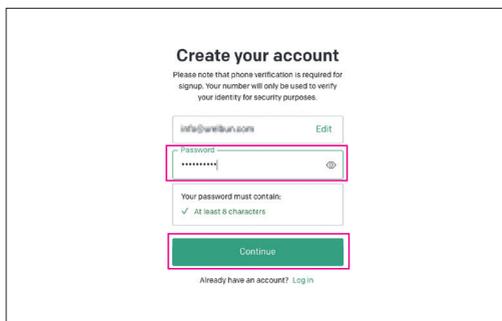


図 1-E-3 表示される「Password」欄に、ChatGPT で使用するパスワード決めて入力したら、再度「Continue」ボタンをクリック

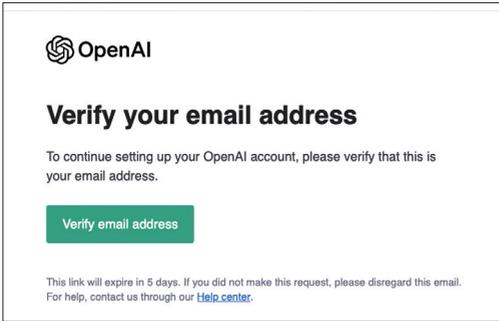


図 1-E-4 入力したアドレス宛てに確認メールが届くので、メール内の「Verify email address」ボタンをクリック

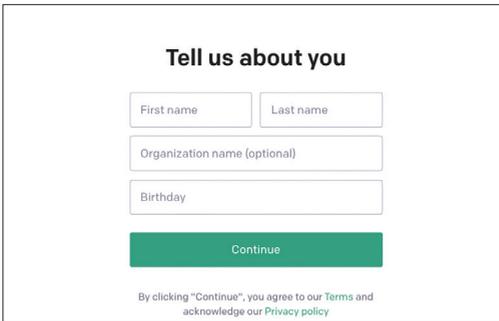


図 1-E-5 開いた画面で氏名と生年月日を入力して、「Continue」ボタンをクリック。生年月日は、1950年1月20日生まれなら「01/20/1950」のように入力

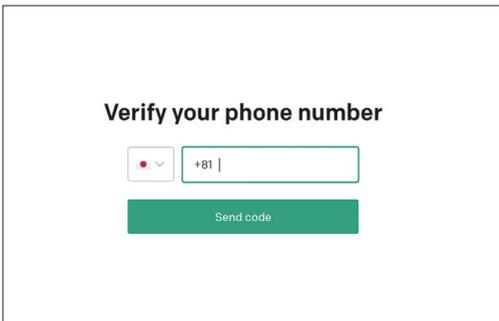


図 1-E-6 携帯電話番号（固定電話は不可）を「+81」の後ろに入力して「Send code」をクリックする。



図 1-E-7 不正対策のためのクイズを解く必要がある。解答するには「クイズを開始する」をクリック



図 1-E-8 ここでは、左の画像上に示された数字とイラストの組み合わせに従い、右側の迷路でその数字とイラストが交差する位置に車を移動させている。「送信」をクリックすると解答できる

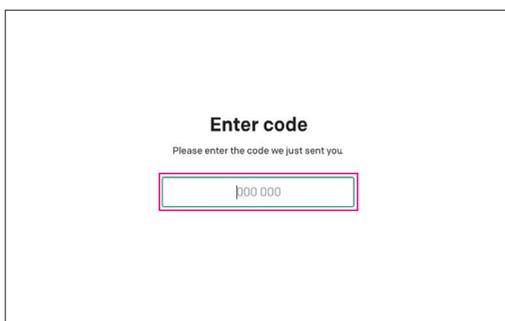


図 1-E-9 クイズに正解すると、6桁のコードを入力する画面が現れる。スマホのメッセージアプリに送られてきたコードを確認して入力

趣味の Chat GPT ポイント集

各章の本文中に掲載した「ポイント」をまとめました。
復習・振り返りにご活用ください。

Chapter01 のポイント

意外と古い AI の歴史

⇒最初に「AI」という言葉が使われたのは 70 年近く前とされる。
3 度のブームを経て現在のレベルまで進化を続けてきた。

「ディープラーニング」で AI の性能は大幅に向上

⇒人間の脳に似せたしくみで情報処理を行う「ディープラーニング」の登場で、AI の性能は大きく向上。複雑な判断を行えるようになった。

ChatGPT が「会話」をするしくみ

⇒ ChatGPT は、適切な質問と回答を学習する「教師あり学習」、回答を人がフィードバックする「報酬モデルの学習」、回答が適切かどうかを自己評価する「強化学習」などによって高精度な回答を実現している。

ChatGPT と Web 検索の違い

⇒ ChatGPT は、そのままでは最新の話題について答えることができない。ただし、Web 検索の結果を反映する「Browse with Bing」プラグインを使えば補うことが可能。

調べものの「入り口」として使うのがおすすめ

⇒ 「Browse with Bing」プラグインなどの検索結果を反映できる対話型生成 AI でおおまかな情報を把握し、正確な情報は参照元の Web ページを確認する。

「Bing Chat」や「Bard」は何が違うの

⇒ ChatGPT のほかにも、Microsoft の「Bing Chat」、Google の「Bard」といった対話型生成 AI のサービスがある。

派生サービスは目的特化

⇒ ChatGPT のしくみが組み込まれた外部のサービスが多数登場している。特定の目的にフォーカスしたものが多い。

Chapter02 のポイント

「丸投げ」ではなく「協業」で使う

⇒ AI に的確な指示を出すには、人間側に生成するものに対する理解が求められる。知識ゼロのものを丸投げして作ってもらうのではなく、「協業」することが大切。

「なにをしたいか」を明確に。ときには結果を疑うことも大切

⇒ ねらいどおりのレシピを生成するには、どんな条件で何をしたいのかを明確に伝えることが大切。また、生成されたレシピが正しいか疑う視点も必要になる。

「考えを深めるツール」として役立つ

⇒ Bing Chat は文学作品の内容も比較的正しく把握できるケースが多い。作品について AI と議論し、自身の考えを深めるツールとして使える。

趣味や生活で使う場合の注意点

⇒ 趣味や生活で使う場合は、すべてが正しいわけではないことを念頭におき、AI に丸投げせず、必要に応じて AI を使用したことを開示することが必要。

Chapter03 のポイント

ChatGPT でメールの下書きをする

⇒メールの文面を生成するときは、内容を箇条書きで挙げて指示する。「礼儀正しく、ていねいな文面で」など、文章の方向性も示すとよい。

長い文章を要約する

⇒元の文章の全文を入れて「要約して」と指示すれば、文章を短くまとめることができる。「箇条書きで」「300 字以内で」といった形式の指定も可能。

文章のスタイルや文体を書き換える

⇒難しい文章を簡単にしたり、「です・ます調」と「だ・である調」を変換したり、長い文章から Q&A を作ったりすることもできる。

イベントの企画を考える

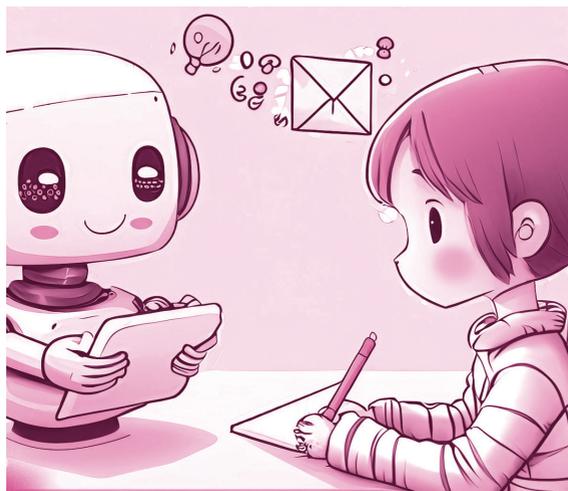
⇒アイデアを ChatGPT に出してもらい、採用したいものがあれば追加質問で詳細な内容を詰めていく。相談相手として活用しよう。

英語のメールを翻訳し、返信文も考える

⇒翻訳したい英文のメールなどを入れて、「日本語に翻訳して」と指示すれば翻訳が可能。日本語の指示で英語の返信文を作ることにもできる。

仕事で使う場合の注意点

⇒ ChatGPT を仕事に使う場合は、内容が正しいかどうかの確認を必ず行い、個人情報や機密情報の入力を避ける。必要に応じて入力したデータを AI のトレーニングに使わせない設定も行う。



画像生成 AI で作成、イメージ

Chapter04 のポイント

使いこなしの七箇条は「ナイスなうさぎ」

⇒ ChatGPT などの対話型生成 AI を有効活用するための 7 つのコツは「ナイスなうさぎ」と覚えよう。

指示文を上手に書くコツ

⇒ 指示文では、前提条件を具体的に伝え、見出しや箇条書きを使って整理して書くことや、必要に応じて見本を見せることがポイント。また、思いどおりの結果にならなかった場合は、追加の指示で修正する。

本質は「人への指示」と同じ

⇒ ChatGPT への指示で求められることは、じつは人間に依頼する場合とさほど変わらない。「相手にとってわかりやすく伝える」ことが大切。

Chapter05 のポイント

生成 AI の普及で懸念されていること

⇒生成 AI のリスクとして、誤情報の拡散や情報漏えい、著作権侵害、教育への悪影響などの可能性が指摘されている。

企業は「自社専用の生成 AI」を導入

⇒企業でも生成 AI の活用は広がりつつある。ChatGPT をベースに自社専用として構築した独自の AI ツールを導入するケースも多い。

各地の自治体でも導入が進む

⇒各地の自治体でも ChatGPT の活用が進む。全国に先がけて導入した横須賀市では 8 割以上が「効率化につながる」と回答。

組織向けのガイドラインも公開

⇒日本ディープラーニング協会は、組織向けに「生成 AI 利用のガイドライン」を公開。必要事項を書き換えるだけで利用できる。

文部科学省の「ガイドライン」はどんな内容？

⇒文部科学省は、小中高校向けのガイドラインを公開。適切ではない使い方や可能性のある使い方が具体例で示されている。

大学での対応はさまざま

⇒大学も生成 AI に対する方針を表明。厳格に禁止とするケースから、適切な活用をうながすものまで対応が分かれる。

「AI の文章を見分けるツール」の精度は？

⇒AI が生成した文章を見分けるツールの結果は必ずしも正しいとは限らない。ChatGPT に直接「あなたが作った文章か」を聞くのは避ける。

活用 or 禁止、今後はどうなっていく？

⇒日本では一定のリスク対策を行ったうえで活用を模索する傾向が強い。今後もこの動きが広がっていくと予測される。

Chapter06 のポイント

業務ツールへの生成 AI 組み込みは当たり前

⇒マイクロソフトや Google の業務用ツールに生成 AI が組み込まれる予定。文書作成やデータ分析、スライド用の画像生成などを行える。Notion や note といったサービスは、すでに AI 機能を導入している。

国産の大規模言語モデル開発の動きも

⇒文章生成 AI の元となる大規模言語モデル (LLM) を日本で独自に開発する動きも。高い日本語能力の実現が期待されている。

画像生成 AI も人気のツールに

⇒画像生成 AI は 2022 年夏頃から注目を集めていた。著作権侵害のおそれのないデータだけを使って学習した AI も登場している。

動画や音声を生成するツールも

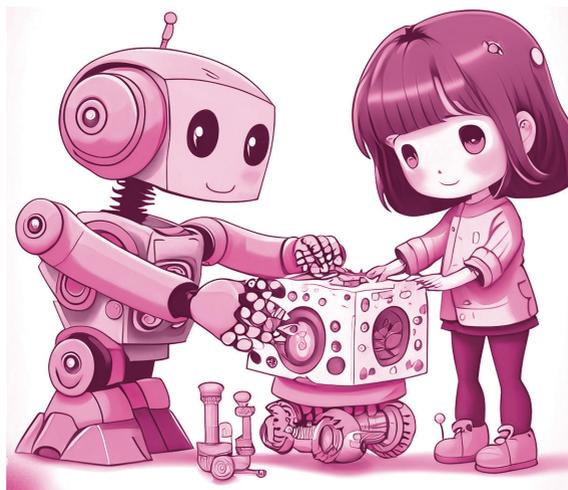
⇒動画や音楽、音声、3D モデルなどを生成できる AI も開発されている。デモサイトなどから実際にその機能を体験できるものもある。

クリエイティブツールへの組み込みも進む

⇒デザイン制作や画像編集、動画編集などにも作業をサポートするための生成 AI 機能が組み込まれるようになっていく。

「AI と共同作業」が当たり前の世界に

⇒さまざまなツールに生成 AI が組み込まれ、AI と人間が共同で作業することが当たり前になっていく。主導権はあくまでも人間にある。



画像生成 AI で作成、イメージ

INDEX

アルファベット

3D	153
Adobe	142,149,155,156
Adobe Firefly	42,149,156
AI	2,3,4,5,27
AI PICASSO	148
AI Text Classifier	129,130
AI と著作権	119
AI アシスタント	121,140
AI 規制法	133
AI ブーム	2,3,4,78,79
Android	29
API	27,122,123
Apple ID	11
AskYourPDF	113
Azure OpenAI Service	122,123
Bard	24,25,26,118,127
Bing Chat	25,62,65,127,143
Bing Image Creator	143,144
Browse with Bing	21,22,24,25,62
Canva	154
ChatGPT Plus	7,18,20
CLONEdev	159
Code Interpreter	158
DALL-E2	143
Dream Studio	145,146
EU	133
Excel	99,136,137
Google	24,26,136,141
Google WorkSpace	138
Google アカウント	11,12,26
Google 翻訳	2,77,92
Google レンズ	2,77
GPT-3.5	18,19,131
GPT-4	18,109,131
GPT モデル	5,27,28,121,141
iPhone	2,29
Kakaku.com	112
LaMDA	26
LLM	141,142
Microsoft 365	99,137
Midjourney	142
MixerBox ChatVideo	113
MusicGen	151

NEC Generative AI Service Menu	141
note	140
Notion	27,28,139
OpenAI	127,129
Photoshop	155
PlugFinder	111
PowerPoint	99,137
Premiere Pro	156
Q&A 形式	80,81
Runway Gen 2	150
Shap-E	153
Show Me Diagrams	114
Siri	2,77
SNS	82,84,88,161
Stable Diffusion	142,146
Voicebox	152
Web 検索	21,22,161
Windows	99
Word	99,115,125,136,137

あ

アイデア	17,72,82,83,85
アイテム	86,87,88
相棒	162

悪影響	120
アプリ	10,26,29

い

依存	102,104
イベント	74,75,82,95,105
意味	34,35,43,44,115

う

嘘	35,103
疑う	60,61

え

英語	7,14,91,129,141
英文メール	93
エキスパートシステム	3,78,79

お

往復書簡	67
お礼	74
音声	136,150,151,152

か

解釈	63,69
ガイドライン	120,125,126,128,132
会話	2,5,16,72,81
書き換え	17,80,81,125
簡条書き	14,16,77,105,115

画像生成 AI	119,136,142,146,154
画像編集	149,154,155

き

機械学習	3,4,78,79
企画	17,82,84,85,95
企業	24,95,118,121,125
危険	162
技術	2,4,104,121
規制	132,133
北原白秋	36,37,38
喫茶店	82,86,89,105
軌道修正	106
機密情報	96,118,125
強化学習	5,6
協業	50
教師あり学習	5
共同作業	157
業務ツール	136,140,157
協力者	35
議論	62,66,69,126
禁止	126,128,132,133

く

具体的	14,32,58,74,103
-----	-----------------

クリエイティブツール	136,149,154
繰り返し	103
クレジット	145

け

敬体	80
結果	18,22,60,106,131
月額	7,19,140
検証	22,95
権利侵害	103

こ

効率	24,27,122,124,154
五十音	36,38,47,50,61
誤情報	118
個人情報	96,118,125
言葉遊び	36,47,70
ごんぎつね	62,63,67

さ

採点	129
サイバーエージェント	121,123,141
サポート	102,137,138,157
サンプル	38,47,106,151,152

し

仕上げ	50,71
-----	-------

試行錯誤	49,132,142,162
仕事	2,73,95,103,162
指示文	16,105,115,47,57
自社専用	121,123
下書き	16,74,99,138
視点	66,70,108,126
シャープ	106,115
修正	33,45,76,106
手段	70,104
主導権	157
趣味	70,102,111
条件	39,44,52,105
上限	78
常体	80
情報漏えい	118,122
食材	2,52,55,60,70
事例	120,122,132

す

筋道	103
スタイル	26,62,80,145,148

せ

責任	103
前提条件	67,105

川柳	2,32,35,36,70
----	---------------

そ

創作	35,71
想像力	48
組織	95,125,132

た

だ・である調	80,81
ダートマス会議	77
大学	128,131
大規模言語モデル	5,25,121,136,141
代替案	57,58,60

ち

知識	21,50,60,118
著作権	62,119,133,149
著作権侵害	119,142,149

つ

追加	14,19,57,60,106
使いこなし	102,109

て

ディープラーニング	3,4,125
できること	2,14,16,36
デザイン制作	154
です・ます調	80

手直し
..... 16,102

と

動画
..... 113,136,150,156

動画編集
..... 156,157

道具
..... 161,162

投稿文
..... 82,88,89

登場人物
..... 63,67,72

登録
..... 7,8,11,12,20

読書会
..... 62

読書感想文
..... 69

特徴
..... 4,14,26,27,149

トランスフォーマー
..... 5

トレーニング
..... 96,98,118,122

な

七箇条
..... 102

なりきり
..... 72

に

新美南吉
..... 62

日常生活
..... 2,52,77,79

日清食品ホールディングス
..... 121,123

日本語 LLM
..... 141

日本ディープラーニング協会
..... 125

人間
..... 4,16,102,103,159

は

ハイフン
..... 115

派生サービス
..... 27,142

パナソニックコネクト
..... 121,123

パブリックドメイン
..... 62

バリエーション
..... 33,35,102

ひ

批判
..... 132

品詞
..... 42

ふ

プラグイン
..... 19,21,62,109,111

プログラミングコード
..... 17,119

プログラミング言語
..... 158

プログラム
..... 4,17,99

文学作品
..... 62,70

文化庁
..... 119

文体
..... 17,80,81,95

へ

平易
..... 80

ベネッセホールディングス
..... 121,123

弁護士ドットコム
..... 27,28

返信
..... 17,67,91

便利
..... 13,79,85,87

ほ

報酬モデルの学習	6
翻訳	2,14,17,91,95

ま

マークダウン記法	115
マイクロソフト	25,62,99,127,137
マイクロソフトアカウント	11
丸投げ	35,50,61,71,102

み

見出し	105,115
三井住友フィナンシャルグループ	121,123
見本	106,108
見分けるツール	129

む

無料	7,18,21,26,131
-------------	----------------

め

メール	2,74,91,95,138
メニュー	2,52,55,82,105

も

模索	124,132,157
文字数	39,78,79,107
文部科学省	120,126

ゆ

有効活用	102,104
有料	18,20,109,158

よ

要約	16,27,77,80,95
予算	86,112
予測	5,47,132,157

り

リスク	118,120,127,132,133
料金	19,28

れ

レシピ	52,55,57,6
レポート	69,120,126,128,131

ろ

論文	81,126,128,131
-------------	----------------

参考文献・参考資料

<書籍>

松尾 豊 著 『人工知能は人間を超えるか ディープラーニングの先にあるもの』

(角川 EPUB 選書)

岡崎直観、荒瀬由紀、鈴木 潤、鶴岡慶雅、宮尾祐介 著 『IT Text 自然言語処理の基礎』

(オーム社)

『ゼロからわかる人工知能 完全版』(ニュートンプレス)

『Newton 2023 年 7 月号 「ChatGPT の衝撃」』(ニュートンプレス)

<資料>

『Prompt Engineering Guide』(DAIR.AI)

<https://www.promptingguide.ai/jp>

『令和 2 年度著作権セミナー 「AI と著作権」』(文化庁)

<https://www.bunka.go.jp/seisaku/chosakuken/93903601.html>

『初等中等教育段階における生成 AI の利用に関する暫定的なガイドライン』

(文部科学省)

https://www.mext.go.jp/content/20230704-mxt_shuukyo02-000003278_003.pdf

酒井 麻里子 (さかい まりこ)

ITライター／新技術ウォッチャー。

XR、ジェネレーティブ AI などの新しいテクノロジーや企業の DX 取材、技術者・経営者へのインタビュー、技術解説記事、スマホ・ガジェット等のレビュー記事などを執筆。Yahoo! ニュース公式コメンテーター (IT 分野)。株式会社ウレルブン代表。Twitter (@sakaicat) では、IT 業界の話題やツール活用などを発信。

超初心者&IT に馴染めない「大人」に贈る 趣味の ChatGPT

2023 年 8 月 23 日 初版第1刷発行

著 者 酒 井 麻 里 子

発 行 者 柴 山 斐 呂 子

発行所 理工図書株式会社

〒102-0082 東京都千代田区一番町 27-2
電話 03 (3230) 0221 (代表)
FAX 03 (3262) 8247
振替口座 00180-3-36087 番
<http://www.rikohtosho.co.jp>
お問合せ info@rikohtosho.co.jp



© 酒井麻里子 2023 Printed in Japan ISBN978-4-8446-0931-5

印刷・製本 丸井工文社

本書のコピー等による無断転載・複製は、著作権法上の例外を除き禁じられています。
内容についてのお問合せはホームページ内お問合せもしくはメールにてお願い致します。落丁・乱丁本は、送料小社負担にてお取替え致します。